

第5学年2組 道徳科学習指導案

指導者 赤松 聖則

平成27年6月10日(水) 第2校時 9:25~10:10 於 自教室

1 主題設定の理由

<指導内容について>

- 誠実とは、良心に従って自分で決めたことに対して、真心をもって行動することである。相手に対して誠実であるためには、まず、自分に対して誠実でなければならない。自分に対して嘘や偽りがあるとき、相手にいくら誠実な態度を示そうとも、それは本当の誠実さとは言えない。自分に対する誠実さがあってはじめて、相手に誠実に振る舞うことができる。自分、そして相手に対する誠実な振る舞いが、ひいては明るい生活につながると考える。

<児童について>

- 宿題を忘れた児童が、その理由を言い、明日もってくることを教師の前で固く約束する。本学級でよく見られる光景である。児童は、自分がどう立ち振る舞えば、相手に誠実な印象を与えられるかを理解している。しかし、それは自分としっかりと向き合った上での宣誓ではないため、次の日も持ってこないことが多い。このように、相手に対しての誠実な振る舞い方を理解している児童は多いが、自分に対して誠実に向き合った上で、他者に誠実な態度をとることができる児童は少ない。

くもりのない心< A - (2) 正直、誠実 >

資料「手品師」

(文溪堂 5年生の道徳 江橋照雄作)

<資料について>

- 本資料は、大劇場に立つことを夢みて努力している手品師が、男の子との約束と友人から得た大劇場に立つことができるチャンスとの間で葛藤する話である。結局、手品師は男の子との約束を守る。手品師が迷いながらも、そのように判断し、行動した心の動きについて考えることで、自分と誠実に向き合うことの大切さに気付くことができる資料であると考えられる。

<指導の工夫について>

- 資料提示を挿絵を見せながらの語り聞かせ形式にし、児童を資料の世界に引き込む。
- 主発問に加え、児童の思考を揺さぶる「深める発問」を随時活用しながらねらいに迫る。
- 話し合い活動(「きらりタイム」)では、考えの傾聴姿勢を大切にしながら、教師が適宜、考えの意味付け、児童への問い返し、考えのつなぎを意図的に行い、価値の深化を図る。

本時の指導と他の教育活動との関連

朝の宿題提出

宿題を忘れたにも関わらず、教師に指導されるのが嫌で報告しないという自己保身的な行為。また、涙ながらに声を震わせ、正直に忘れたことを報告する行為。

Dタイムでのもみまき

感想発表で指名された児童が、考えがまとまっていなかったために、発言が切れ切れになってしまった。半べそをかきながらも、ごまかさず、最後まで誠実に発言しようとした行為。

2 本時の指導

- (1) ねらい 手品師が男の子との約束を選んだ理由を考えることを通して、自分や他者に対して誠実に生きようとする心情を養う。
- (2) 準備物 挿絵、にこにこ日記（感想記入用紙）
- (3) 展 開

主な学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点◇評価
<p>1 約束を守る理由を考える。</p> <p>2 資料「手品師」を基に考える。</p> <p>(1) 大劇場に立てる日を夢見て、うでをみがいている手品師の気持ちを考える。</p> <p>(2) 手品師が男の子との約束を守る方を選択した理由を考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>きらりタイム</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ペア</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">全体</p> <p>(3) 町のかたすみで男の子を前に手品を演じている手品師の生き方を考える。</p> <p>3 学習を振り返り、考えたことを発表する。</p> <p>4 教師の話聞く。</p>	<p>○ 約束はどうして守らなければならないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に失礼だから。 ・ 相手に嫌な思いをさせるから。 <p>○ 大劇場に立てる日を夢見ている手品師は、どんな気持ちでうでをみがいているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あきらめないぞ。 ・ 絶対に夢をかなえてみせる。 <p>◎ 手品師はなぜ大劇場へのさそいを断つてまで、男の子との約束を守ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男の子を悲しませたくないから。 ・ 男の子との約束が先だったから。 ・ またチャンスは来ると思ったから。 ・ 約束は大切なものだから。 ・ 大劇場に行っても後ろめたい気持ちになるから。 ・ 約束を破ると、相手も自分も裏切ることになるから。 <p>○ こんな手品師の生き方をみなさんはどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に正直ですごい。 ・ お金はないけど心は幸せだと思う。 <p>○ 今日の学習で考えたことや思ったことを書こう。</p>	<p>○ 約束は「相手」のために守るという児童の価値観を引き出す。</p> <p>○ 語り聞かせを行い資料の世界に児童を引き込む。</p> <p>○ 考えの意味付け、児童への問い返し、考えのつながりを意図的に行い価値の深化を図る。</p> <p>○ 深める発問（「手品師は、男の子がかわいそうだから仕方なく約束を守ったのか。」など）を準備しておき児童の思考を揺さぶる。</p> <p>○ 誠実な振る舞いが、生活や心を明るくさせることに気付かせる。</p> <p>◇ 自分や他者に対して誠実に生きようとする気持ちをもつことができたか。</p> <p>○ 誠実に関する名言を紹介し、まとめとする。</p>

(4) 協議の視点

ねらいに迫るための、「深める発問」を中心とした教師のコーディネートのあるあり方について。

3 板書計画

